

Value Creation

パラマウントの価値創造



CONTENTS

はじめに

パラマウントの
価値創造

成長戦略

資本戦略

コーポレート・
ガバナンスコーポレート
データ

医療事業

医療現場を支え、 患者と医療従事者のあすの生活を豊かに

世界の医療事情は年々、課題が増える傾向にあります。

人口の高齢化に伴う生活習慣病の増加、新たな疾病・感染症などの発生。
途上国の医療格差や医療の高度化に伴う医療従事者への負担増加など。

まずは患者が心地よく過ごせること。

さらには医療現場の環境を改善し、
医療従事者が存分に能力を発揮することで患者の早期回復をうながす。

わたしたちはそんな医療を目指し、
患者や医療従事者、病院運営そのものを支えています。

Medical Care



Nursing Care

介護事業

その人らしい生き方を支えて、 喜びが重なる瞬間が増えるように

介護における悩みやストレスは、される人もする人にもものしかかる問題です。
身体的にも精神的にも疲れたり、金銭面の理由があったりと解決は容易ではありません。

さらに、高齢者の人口が急増する一方で、若い世代の人口と労働力は減少している、いま。
介護する人の負担をもっと減らしていく必要があります。

「ありがとう」が自然にこぼれて、笑顔があふれる。
される人もする人も、小さな喜びが増えていく介護へ。
本人や家族、介護に関わるすべての方を支えています。

健康事業

健康な人生を送り、 医療・介護の必要が少ない世界を目指す

わたしたちの医療・介護用の製品やサービスが、
使われずに済むことが理想の姿だと考えています。

治療や介護が必要になってから慌てるのではなく、自ら健康を意識して予防をしていく。
健康の持続を実現していく役割も、わたしたちにはあります。

日々の疲労を回復し、心身の修復を行うために大切な「睡眠」。
その時間を適切かつ充実したものにすることが、健康への重要なステップです。
1947年の創業以降「睡眠」に対して真剣に向き合ってきた
わたしたちだからこそできるサービスを提供しています。

Health Promotion



価値創造プロセス

MATERIALITY

取り組む重要課題

□ P.19



企業理念

先進の技術と優しさで、
快適なヘルスケア環境を
創造します

パラマウントビジョン2030

「医療」「介護」から「健康」まで
すべての人に笑顔を

社会課題

事業環境

人口構造の変化

- 日本と世界の高齢化・長寿化
- 人口減・労働者不足
- アジアの成長

価値観の変化

- ダイバーシティ
- ワークライフバランス
- 働き方改革
- ESG・SDGsへの取り組み

機会と リスク

機会

- 質の高い医療・介護への需要増
- 健康志向・QOLの追求
- ヘルスケアコンシューマリズム
- デジタル技術の進化・データ活用の推進

リスク

- 制度変更リスク
- 部品・資材調達リスク
- 自然災害等による生産機能の制約
- 新型感染症拡大によるリスク
- サプライチェーン上のリスク

INPUT	人的資本	知的資本	製造資本
経営資源	自然資本	社会関係資本	財務資本
□ P.47-P.59			

ビジネスモデル

□ P.21

医療事業



□ P.32

介護事業



□ P.35

健康事業



□ P.38

強み

□ P.20

ワンストップ
ソリューション体制

顧客基盤

優しさを
価値に変える力

資本の強化

OUTPUT

生み出した成果

中期経営計画

(2024年3月期達成状況)

□ P.27-P.31

売上高

106,016百万円

営業利益

13,818百万円

営業利益率

13.0%

配当性向

35.6%

設備投資額

3,643百万円

□ P.80-P.82

OUTCOME

提供価値

WELL-BEING for all beings

事業価値

- お客さまとの強固な信頼関係
- 健全な財務指標、非財務指標

社会価値

- 病院・介護施設等の経営改善、療養環境改善
- 看護・介護する方の負担軽減
- 患者の早い社会復帰
- 介護される方の高いQOL
- いきいきとした暮らし・健康寿命延伸・睡眠改善

環境価値

- 事業活動における環境負荷低減
- 循環型社会実現への貢献

マテリアリティ

パラマウントベッドグループでは、社会とともに持続的に成長するため、優先的に取り組むマテリアリティ（重要課題）を策定しています。わたしたちが創業時から向き合ってきたことや、国連のSDGsで掲げられていることなど、さまざまな社会課題が含まれます。このマテリアリティをふまえ、これからも事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していきます。

マテリアリティ	重点項目	SDGs目標	ESG分類
1 持続的な医療・介護体制整備の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・介護の効率化・働き方改革支援 ● 看護・介護従事者に対する教育への支援 ● 非常事態時における支援供給体制 	    	S
2 すべての人が健康でいきいきと暮らせる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 科学的な根拠に基づく睡眠環境提案 ● 看護・介護する方の働きやすい環境づくり支援 ● アスリートへの睡眠改善提案を通じたパフォーマンス向上支援 ● 次世代の担い手への育成支援 	    	S
3 製品安全の追求	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品安全のための体制整備 ● 安全な使い方の啓発 ● 業界横断的な取り組みへの積極的関与 	   	S
4 従業員の健康・ダイバーシティ・働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員の健康・労働安全への取り組み ● ダイバーシティの推進 ● 働き方改革の推進 	  	S
5 環境に配慮した事業活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産プロセスにおける環境負荷の低減 ● プロダクトライフサイクル全般を通じた環境負荷の低減 ● 循環型社会実現への貢献 	    	E
6 コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業倫理の取り組み ● 公正取引の徹底 ● 透明性の高いガバナンスの推進 	 	G

培ってきた強み

真の課題解決を追い求めて、わたしたちのサービスは広がり続けています。ベッドの開発・販売にとどまらず、ヘルスケア環境に必要なさまざまな製品から病院運営の支援まで。すべては患者、医療従事者、介護事業者など、だれもが快適に活動できるようにするためです。さらに、当社グループ間の連携によるワンストップなサービス提供と、現場の声を活かした品質向上を実現しています。長年にわたり業界をリードし続けてきた、パラマウントベッドグループにしかできない強みです。

01

ワンストップ ソリューション体制

グループ間のシームレスな連携

ベッドを主軸としたヘルスケア環境に必要な製品・サービスを、企画→開発→製造→販売・レンタル、そして提供後の品質管理やメンテナンスからアフターフォローまで、顧客のニーズや課題に対して高次元のソリューションを提案。ワンストップで提供できる体制を構築しています。

02

顧客基盤

オンリーワンの業界ネットワーク

医療施設、医療機器ディーラー、介護施設、福祉用具貸与事業者およびレンタル卸事業者、医療・介護・健康の各事業における販売店などの皆さまと、長年にわたって強固な信頼関係を築いてきました。自社だけでは気づけないニーズや思いつかないアイデアを共有し、ともに社会課題へ取り組んでいます。

03

優しさを 価値に変える力

創業から変わらない社会貢献への使命感

わたしたちの事業をとりまく環境は、時代とともに多様化・複雑化しています。しかし75年以上にわたり、「社業を通じた社会貢献」という変わらない信念を持ち続けることで、柔軟に対応してきました。これからもその想いのもと、社会で必要とされる会社となるために、現場や利用者のお困りごとに寄り添い続けます。

ビジネスモデル

PDCAを回し、品質向上や新たな価値創造につなげる



FEATURE 1

医療・介護業界の働き方改革へ

パラマウントベッドグループの挑戦

高齢化率の上昇にともなう医療・介護の需要増加。さらに、労働人口の減少による深刻な人手不足が、医療・介護業界も例外ではなく起きています。スタッフの負担が増え続け、過酷な労働環境に拍車がかかることで離職者が増える、という負のスパイラル。そんな大きな社会課題を日本は抱えています。

例えば看護業務においては、体温や血圧など、バイタルサインの記録に多くの時間を割いている状況があり、その業務が時間外労働の半分以上を占めるケースも。また、測定した結果や

観察した項目のメモを見ながら電子カルテに入力する際に、誤入力や入力漏れが生じる場合もあります。

患者や被介護者が安心して過ごせることはもちろん、医療・介護従事者が無理なく働ける施設運営がますます求められています。



当社グループは、各現場で起きている課題を解決するために、事業領域を拡大し続けています。医療・介護従事者の負担を低減するため、省人化・効率化に向けた製品・サービスを開発。長年培ってきた知識やテクノロジーを活用し、新しいサービスを世の中に提供しています。

医療事業では、バイタルサインの記録や患者の状況把握などを効率化する「スマートベッドシステム」、医療従事者の作業をお手伝いする「看護助手業務」「ベッドセンター業務」「コンシェルジュ業務」「医療機器保守管理業務」など。病院運営の全体を支援しています。

介護事業では、被介護者の睡眠時間や心拍数、体重、排せつなどの情報を一元管理でき、管理者やスタッフ間

の共有が簡単な見守り支援システム「眠りCONNECT」を提供。同システムの軸となる製品「眠りSCAN」は、マットレスの下に敷くだけで睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数などが遠隔で確認できます。特に夜間の見守りなどにおいて、入居者の安全性を担保しつつ、介護従事者の負担を軽減します。

このようなDXに向けたサービスは、単に「導入」するだけでは最適な効果を得られません。うまく「活用」いただくことが大切です。そのため当社グループは、導入前のヒアリングや、導入後のサポートに注力しています。そして、医療・介護従事者の働きやすい環境をつくり、本来の大切な仕事に集中できるように支援していきます。

医療事業



常駐サービス契約病院数

107病院 > 113病院 +6%
2023/3 2024/3

スマートベッドシステム導入病院数

32病院 > 46病院 +44%
2023/3 2024/3

介護事業



眠りSCAN累計販売台数 (医療・介護合計)

15.5万台 > 20.2万台 +30%
2023/3 2024/3

眠りCONNECT契約施設数

2023年10月提供開始 > 177施設
2024/3

FEATURE 2

長年の研究結果を活かし、 睡眠にまつわる社会課題解決に挑む

人が毎日寝る理由。それは、一日に受けた身体のダメージを、次の日まで修復することです。人は、起きて活動しているときに、自分が意識していないところでエネルギーを消費し、ダメージを受けています。そのため睡眠中には、いわゆる「疲れ」をとるだけでなく、心臓や脳なども含む細胞レベルでの修復が行われます。人間が約700～600万年前からの進化の過程で、「睡眠」という無防備で危険な時間を無くすことができなかつたほど、寝ることは生きるうえで必要かつ重要なのです。

しかし、睡眠の重要性を学ぶ機会はほとんどありません。また、日本は「睡眠負債大国」と言われ、平均睡眠時間は世界50以上の国と地域のなかで最下位の、6時間18分(スイスのスリープ・サイクル社調べ)。寝不足や質の低い睡眠は、生活習慣病や循環器疾患、うつ病、認知症などの発症リスクを上げることがわかっています。それだけでなく、国民一人当たりのGDPが高い国ほどよく寝られている、という結果も出ています。アメリカのシンクタンクによると、日本の寝不足や質の低い睡眠による経済損失は年間15～20兆円

に相当するといえます。一人ひとりの健康面と日本社会全体の経済面の両面で、「睡眠」の課題が重くのしかかっています。

当社グループは長年にわたり、医療・介護用のベッド・マットレスの開発を中心に、パラマウントベッド睡眠研究所にてさまざまな研究を重ねてノウハウを蓄積してきました。その知見をも

とに、「健康事業」を展開。人の睡眠に寄り添う、製品・サービスを提供しています。

主力製品のひとつである、睡眠センサーを活用した自動運転ベッド「Active Sleep BED」は2019年の発売以降、初めてのフルモデルチェンジを2024年4月に実施。お客様の声を活かした、より良い製品に生まれ変わりました。主なアップデートは、旧モデルにも搭載されていた当社グループ独自の技術である、入眠時と起床時にベッドが自動で動く「眠りの自動運転機能」です。背もたれの角度が30度から最大65度までに拡大され、一人ひとりに合った睡眠環境をつくるカスタマイズ性が高まりました。



健康事業

Active Sleepブランドの特徴



「入眠角度」という新提案

ベッドの背を少し上げると、呼吸が楽になり、眠りやすくなります。そのため「入眠角度」を提案しています。日ごとの体調に合わせて、角度を変えることも可能です。



ベッドの自動運転

熟睡を感知すると、自動運転開始。「入眠角度」から、楽に寝返りできるフラットな状態へ、ゆっくりと動きます。さらに、設定した起床時刻に近づくと、自動で背が上がり、心地良い目覚めをうながします。



マットレスの硬さを自在に調節

硬めか、柔らかめか。その日の体調に合わせた最高の寝心地を、100万通りにコントロールできます。身体の部位ごとに硬さを調節できるので、どんな体形の人も快適に支えます。

